

『一心千里』

走っていけば、 見えてくる

永田 隆一



第74回

2009年3月に秋葉

原で地域イノベーションフォーラムが開催されました。400人程度が参加され、初代会長の堀場雅夫さんが基調講演をされました。「企業誘致を

しても、不景気になれば企業はそこから出て行く。これからは地域に根ざした企業の成長を助けることが重要である。なぜなら、地域に根ざした企業は不景気でも出て行かない。国・自治体、大学の連携で結果を出せるスキームを作りたい」。経済副大臣の高市早苗さんもマイクを持たれま

した。何人かの講演が終

わり、大学の先生方を中心としたパネルディスカッション。そしてQ&A。筆者は手を挙げてマイクを持ちました。

「質問はありませんが、3点コメントをさせていただけます。産官学のスキームを担う方々は、3年程度の有期の職務形態。どうしてもコーディネートナー的な調整業務しかできないため結果を出せません。プロデューサーのように、資金も集めて顧客も責任持って集めてくる、そういう役割を担えるチームを考える必

要があります」。

「大手企業が手を差し

おもしろおかしく生きる

堀場雅夫さんとの思い出

「分かりました、1カ月以内に必ず京都で馳走になります」と、握手して別れました。写真は、その翌月、京都ホテルオークラの中華料理「桃李」の個室です。

「永田さん、送ってくれた半導体産業新聞のコラム、全部読ませていただいた。小説は良かったよ。少し渡辺淳一の匂い

歩み寄られて来ました。名刺を1枚握り締めて「堀場といいます。良いコメントでした。一度、京都で私と食事を一緒に願います」。驚きました。「その場限りの口約束ではなく、必ず食事に付き合ってくださいね」と念を押されます。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。



堀場雅夫さん(左)と筆者

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

「あつ、鯉のあんかけ、忘れてた。今日は永田さんがお客さん、頭の方を半分行きなさい」。筆者は平らげました。

(毎月連載)